

## 若い教師の共育力に期待する

「若い教師の教育実践交流講座」が問いかけていること

山口 正（講座世話人、大学教員）

昨年8月のあいち教育大集会で、私が世話人になって「若い教師の教育実践交流講座」を開講した。ここ数年の体験から、若い教師や教師をめざす学生たちの教育力（共育力）の大きさを実感し、それに依拠した企画を設けたいと考えたからである。第1回講座には予想以上の参加（30人）があった。2回目の講座は4月の春の教育集会で開講、いまその準備をすすめている。

この講座の趣旨

この講座の趣旨（学び合いたいこと）は2つである。

講座をとおして、若い教師の実践報告と意見交流から、教師にとって大切なことを学び合う。

教師として生きることのすばらしさ・苦労・これからを考える。

若い教師と教師をめざす学生たちとの交流（つながり）の場とする。

すてきな教師をめざす、つながりの輪を広げる。  
というものである。

昨年の講座は、春日井市の小学校教員Kさん（臨時教員2年経験、新採1年目）と名古屋市小学校教員Yさん（新採2年目）に実践報告をお願いした。報告で共通していたことは、「すてきな実践」を紹介するのではなく、若い教師としての失敗体験や悩み、自分を変えた子どもや親との出会い、そのなかで見つめてきた「教師とは何か」という自問であった。参加者は、そのありのままの姿に感動し、学ぶことが多かったという。

第1回講座の特徴と教訓

世話人として、第1回講座が終わったあとに、講座のまとめを民教連事務局に提出した。そのなかで、<この講座の特徴は、（講座趣旨に記したように）若い教師の実践報告と参加者の意見交流をとおして、教師としてのあり方を考えることができたことであろう。教職経験2、3年の若い教師の子どもに向き合う実践報告は、大学生にとっては「将来の自分の姿」を描く＝想像する学習の場になったと思われる。また、現職教員にとっても、若い教師と大学生との出会いのなかで、教師の・教育の原点を振り返る機会になったと思われる>と記した。

また、講座成功の秘訣（背景）として、ア）講座の趣旨が参加者に共感的に受け入れられたこと。

イ）報告者2人の人選と報告内容がよかったこと。具体的には、報告者自身が事前打ち合わせ（講座10日前に実施）をとおしてその趣旨を理解し、まとまりのある報告内容を準備し、当日の報告内容が参加者に理解と共感を与える内容であったこと。

ウ）世話人が報告者2人の大学生活や教師生活を知っていたこと、それを踏まえて、報告準備に関する助言を行ってきたこと（講座報告依頼書の作成・送付、意見交換、事前打ち合わせなど）。

エ）講座内容を報告だけに終わらせず、報告から学び合う運営（意見交流）を重視したこと。その結果、大学生から自主的な発言が生まれ、ベテラン教師もその姿に刺激され、講座の雰囲気かと

てもよかったこと（対等に学び合える講座運営に心がけたこと）。

オ）参加組織に関しては、世話人が大学や活動でのつながりを活用して若手に積極的に参加を呼びかけたこと。また、他の大学関係者による働きかけによって参加した大学生も見られ、愛知民教連集会の講座・分科会企画としては異例（最高？）の若手参加者（参加者の6割は大学生）が集ったこと。その結果、当初の参加目標30人を達成できた。と列記し、今後の講座開講のための教訓とした。

### 競争意識を乗り越えて

冒頭、「ここ数年の体験から」と記したが、その体験は私が実行委員としてかかわっている「すてきな教師をめざす教員採用学習交流講座」のことである。昨年3月下旬から8月にかけて開講した講座には（全10回）のべ約1200人が参加、臨時教員と大学生がほぼ同じ割合（43%）であった。昨年、講座参加者が飛躍的に増えたが、その理由のひとつが〈ともに学び合うことによって創り出される若者たちの共育力〉であった。

教員採用数の増加にともなって、各県市で採用試験対策講座が多様な形で開講されている。講座の目的は「試験対策」が示すとおり、試験準備の一環として、試験の傾向と対策を学び、合格への力を身につけることである。しかし、「すてきな教師」講座の目的は異なっている。

目的1 愛知県・名古屋市の教員採用選考試験に向けての学習をとおして、どんな教師・力量が求められるのかを体験的に学び合える講座をめざします。

目的2 講座参加者の交流をとおして、ともに〈すてきな教師をめざす仲間〉〈将来の同僚〉として、励まし合い・育ち合える講座をめざします。

受験産業では否定されそうな講座目的である。しかし、その目的に共感が広がっているのである。

講座では、受験者が現状では持たざるをえない競争意識の傾向を直視し、それを乗り越える試験の向き合い方（視点）を講座目的として打ち出し、試験結果による分断を許さない姿勢を〈学び合い〉をとおして追求してきたと言える。その向き合い方と姿勢が、受講者に共感を広げ、参加者増につながっている。

あわせて注目したいのは、教師をめざす者どうしの接点（共通の願い）を広げ、他者理解を実現したことである。とりわけ、臨時教員と大学生との出会い・交流は、大学生にとっては臨時職（臨時教員）に対する理解を深めるものになっている。さらに、試験結果の交流をとおして、現行の採用制度の問題点や矛盾に気づいたり制度改善を切望したりする参加者の姿は、若い教師たちに学校・教育を変えていく潜在能力が存在するを感じさせるものであった。その能力は、第1回「若い教師の交流講座」でも見事に発揮されていた。

### 第2回講座の案内

春の教育集会の第2回「若い教師の教育実践交流講座」は、初めて学校現場に赴任した新採教員を招いて、講座を企画している。子どもと出会って3週間の奮闘記（ドタバタ）を語ってもらいながら、理想と現実の教師生活から講座の目的にせまってみたいと考えている。すでに4人の新採教師から快諾の返事をもらっている。講座の後半では、分散会に分かれて、じっくり交流をすすめたいと考えている。

講座での報告者を募集中。また要望も寄せてください。

【連絡先】 あいち民研事務局長

山口 正 [tadasi@msh.biglobe.ne.jp](mailto:tadasi@msh.biglobe.ne.jp)

